

タイ・Nakhon Si Tammarat 県南部の海岸で台風 Pabuk による被害状況の現地調査を行いました(2019/1/14-15)

テーマ：台風、浸水、海岸、災害調査

場所：タイ・Nakhon Si Tammarat 県南部の海岸

2019年1月14-15日に、災害リスク研究部門 環境変動リスク研究分野の有働恵子准教授とカセサート大学の Ritphring 博士らのグループは、約21年ぶりに台風からサイクロンに変わってタイを横断した台風 Pabuk による被害状況について Nakhon Si Tammarat 県南部の海岸で現地調査を行いました。本調査は JST/JICA SATREPS のプロジェクト『タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進に関する研究』の一環として行われたものです。

https://www.ist.go.jp/global/english/kadai/h2702_thailand.html

現地の住民へのインタビューの結果、一部の調査対象地では主に降雨による河川氾濫により毎年のように浸水被害は受けていますが、過去最も深刻だった1962年の台風による災害より被害が大きい場所も多く、2m以上の浸水深も計測されました。また、沿岸域の一部には大量の土砂が広範囲に堆積しており、重機による土砂の除去作業が行われていました。

被災地の大部分は漁村で、現地メディアの取り扱いも大きくなく、調査前は極めて限られた情報しか得られていませんでしたが、今回の調査でおおよその被害規模を把握しました。今後は衛星画像等の解析による浸水域や高潮堆積物の堆積状況の把握を予定しています。



現地調査の様子

文責：有働恵子（災害リスク研究部門）